

発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター

TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:2024年11月号掲載

はったつしょう ひと かんかく 発達障がいの人々の感覚

人間には、視覚や聴覚、触覚など色々な感覚が備わっています。感覚の感じ方には個人差がありますが、発達障がいの人は感覚が極端に過敏だったり鈍感だったり、感覚に偏りがある人が多いといわれています。特に自閉スペクトラム症の人では、60～90%の人がこうした感覚面の困難さを感じているそうです。

発達障がいの人が最もつらいと感じている感覚面の困難さは、聴覚に関する困難さといわれています。大きな音や甲高い音、突発的に鳴る音を苦手としている人は多いです。また、周囲の音を取捨選択して聞き取ることができないため賑やかな場所にいと疲れてしまう人や、目の前の人の話し声が周囲の雑音にまぎれてしまい話の内容が聞き取りにくくなる人もいます。

視覚に関する困難さを訴える人も多いです。蛍光灯の光がチカチカと感じられ勉強や仕事に集中することが難しい人や、白いノートだと眩しくて字が書きづらいという人もいます。LEDライトや太陽光が目には痛いほど眩しく感じられ、生活の中で大きな苦勞を感じている人もいます。

触覚の困難さもあります。服のタグや縫い目の感触がチクチクと痛痒く感じられ、特定の肌触りの服でないと着られない人や、シャワーが刺さるように痛くて浴びられないなどの困難さを訴える人も多いです。その他にも、触覚や嗅覚の過敏さから食べられるものが限られていたり、柔軟剤や香水の匂いが耐えられないほどつらいなど、様々な感覚にまつわる困難さがあるといわれています。

感覚は目に見えず、他人と比較することができないため、感覚の困難さがあっても周囲に理解されづらいことが多いです。また、年齢が小さければ小さいほど「自分の感じ方が人とは違う」ということに気づきにくい。周囲の人がその困難さを理解し、無理なく少しでも居心地よく過ごせる工夫を、本人と一緒に考えていけるとよいですね。

さんこう いんようぶんけん
参考・引用文献

『発達障がいのある人の感覚の問題』 国立障害者リハビリテーションセンターホームページより
『発達障がい者の感覚の問題』 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 発達障害ナビポータルより